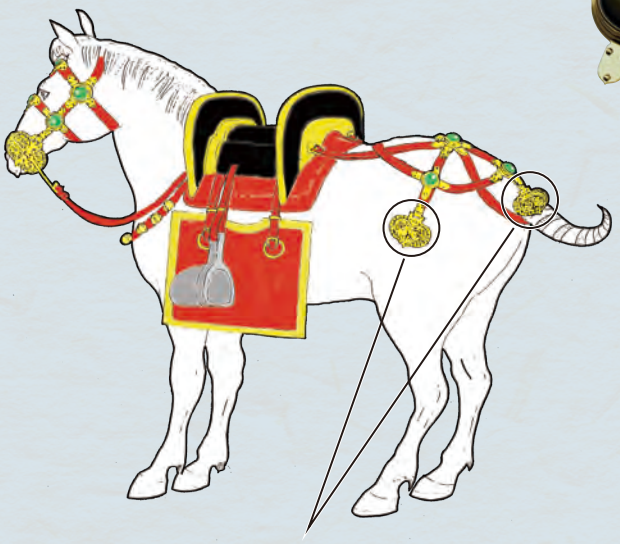
ほうおうもんしんようけいぎょうよう

鳳凰文心葉形杏葉

杏葉とは…

杏葉とは、馬の胸や尻の部分の革帯にぶら下げた馬具です。権力者が馬を飾り立てて力を誇示するために作られたもので、船原古墳では心葉形（ハート形）、花形、棘葉形（先の尖った葉っぱの形）といった様々な形のものが見つかっています。

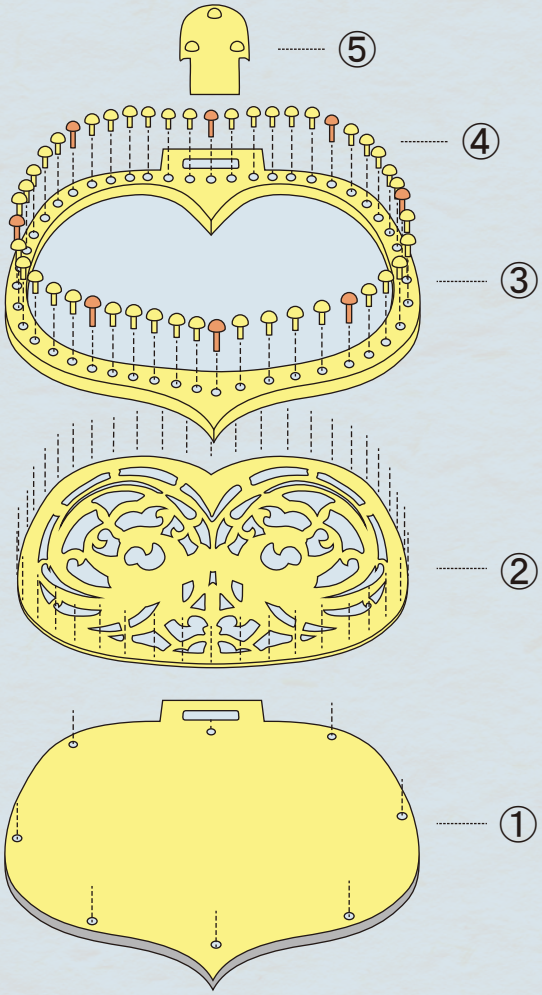


杏葉の取り付け位置

鳳凰文心葉形杏葉の基本情報

鳳凰文心葉形杏葉は、心葉形（ハート形）で、伝説上の動物、鳳凰をデザイン化した杏葉です。１号土坑から３点見つかっていて、いずれも①地板の上に②文様板、その上に③縁金を重ねて④鋲で留めるという構造です。鋲の数は３点それぞれで異なりますが、固定するために打たれた鋲（図のオレンジ色の鋲）は８本で、他の鋲は地板まで到達していないことから飾り立てるためのものです。立聞（杏葉の上、突出して方形の孔を開けている部分）には革帯に取り付けるための⑤金具が付いています。

鳳凰文心葉形杏葉の復元 CG



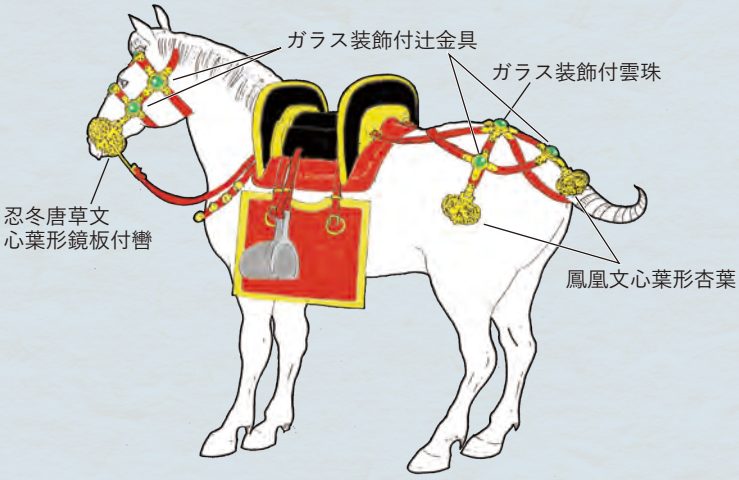
杏葉の層状構造の図解（番号は本文と対応）

文様板には左右一対で鳳凰が彫られています。鳳凰の羽などは細かい線（最も細かい部分では約0.3mmの間隔）で表現されていて、国内で発見された他のものと比べても繊細（せんさい）な技術で作られています。

鳳凰文の拡大写真

鳳凰文心葉形杏葉と組み合わせて使われた馬具

船原古墳１号土坑では、轡（くつわ）と杏葉が複数見つかっていますが、鳳凰文心葉形杏葉は、心葉形という形や全体の構造、精緻（せいち）な文様といった共通点から、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡（にんとうからくさもんしんようけいかがみいたつきくつわ）と組み合わせて使われたと考えられます。また、鳳凰文心葉形杏葉の近くからはガラス装飾付雲珠（うず）１点とガラス装飾付辻金具（つじかなぐ）が３点、忍冬唐草文心葉形鏡板付轡の近くではガラス装飾付辻金具が６点見つかっていることから、これらが組み合わせられて一頭の馬を飾った馬具であったと考えられます。



鳳凰文心葉形杏葉と組み合わせて使われた馬具の取り付け位置

鳳凰文心葉形杏葉（左）と忍冬唐草文心葉形鏡板付轡（右）

古賀市立歴史資料館
〒811-3103 福岡県古賀市中央二丁目13-1
TEL 092-940-2683　FAX 092-944-6215

船原古墳最新情報のページのURL　https://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/bunka/bunkazai/funabaru/

令和３年３月発行